# 第３５回福岡県美しいまちづくり建築賞　受賞作品概要

## 住宅の部　大賞　「HOUSE W」

**●設計趣旨**

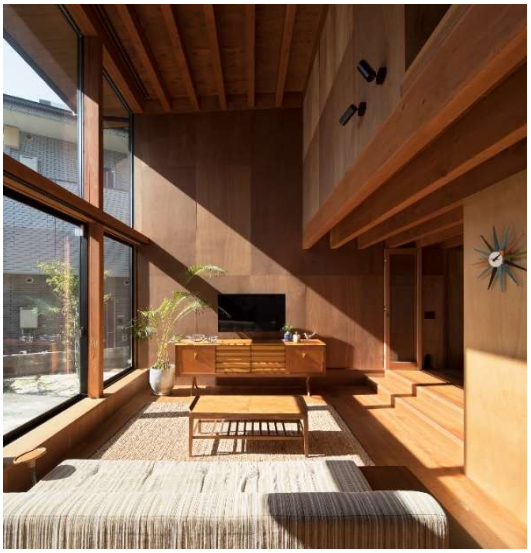
隣接する神社の御神木が印象的な敷地に建つ住宅である。神社の緑を景観として取り入れ、狭隘な通りの印象を改善することを念頭に計画した。建物の軸線を御神木に向けて配置し、通りも含めて一体の外部空間として整理することで、狭隘な通りの印象を緩和しつつ、建物は御神木とストレートに向き合う構えとなる。建物は北側の御神木と南の庭をつなぐ筒状の空間とすることで、内部のどの場所からでも外部環境が感じられる。仕上げは内外とも赤味の木とし、神社の緑と補色関係にすることで、色彩の面でも関係を持たせた。

神社の緑、南の庭といった外部環境を横断するような構えとし、この場所との関係を緩やかにつなげることで、双方にとってより良い環境が醸成できればと考えた。

**●講評**

建て込んだ住宅地の中に佇む小さな神社に面して建つ住宅です。神社には地域のシンボルでもあるクスの巨木があり、それに対して大きな開口を取ることによって、その存在感と眺めを室内へと取り込んでいます。また、狭小な道路から建物をセットバックして敷地の一部を道路状にすることで、地域の皆さんが通行しやすい拡張された道路空間を作っています。木と建物が対になることで、この街角が特徴的な地域の顔となり、夜になると、室内の光がクスの木を照らすことで、美しく安心感のある風景を作りました。

室内は、温かみのある木材の存在感を前面に出し、少し暗い仕上げで統一されています。それでも南側には庭に面して大きな開口が設けられていて、十分な自然光と開放感が得られます。室内の可動間仕切りを全て開放すると、明るい南側からクスの木が見える北側まで風と光と視線の全てが室内を通り抜ける気持ちの良い一体空間が現れます。この可動間仕切りは、季節によって様々に開け閉めして使われるでしょうし、家族が成長して暮らし方が変わっても、柔軟に対応できる仕組みです。少し暗い室内の仕上げ、柔軟な間仕切りと開放性、周囲の自然環境との共存は、実は伝統的な日本家屋が持っていた特徴です。その伝統を現代的な形で再構成した住宅と言えるでしょう。



撮影：Kouji Okamoto(Techni Staff)

## 一般建築の部　大賞　「福岡市立平尾霊園合葬式墓所」

**●設計趣旨**

核家族化や死生観の変化で、承継を必要としない新形態の墓の需要が高まり、福岡市が平尾霊園に整備した合葬式墓所。かつて霊園を造成する際に削られた山を修復するよう山裾を延ばし、その下に埋蔵室を埋め、山の上に献花所を設けた。埋設には今回の建設で生じる掘削土を利用している。献花所のまわりを円弧状の壁とベンチで囲み、その外側に既存樹を活かした公園をつくり、墓所と公園という日常・非日常を壁１枚背中合わせで共存させた。公園から献花所は見えず、山は風景として映る。故人は山に抱かれ眠り、遺された人は山を前に故人を想い、故人に見守られ公園で過ごす。山の力を借り、特定の宗教色のない、自然と調和した施設をつくった。

**●講評**

福岡市中心部に辛うじて残る小さな丘に作られた合葬墓です。家族のつながりが薄れた現代社会では、家単位で墓を維持することは既に現実的ではなくなりつつあります。一般のお墓に納めることのできない遺骨をまとめて慰霊する場所である合葬墓を公共で整備することは、非常に現代的な社会福祉政策とも言えます。

この難しい課題に対して設計者は、自然の緑豊かな丘の中に遺骨を納める建物を埋め込み、その丘全体を古墳のような大きなお墓と見立てて、それに対峙する形で祈りを捧げるための場所を作りました。丘への視界を切り取るように設けられた門形のコンクリートフレームは、非常にシンプルな形状ながらも力強く祈りの場を規定し、彼岸と此岸との境界を示しています。その祈りの場を囲むように設けられた円弧状の壁と、そこから跳ね出すように設けられた屋根は、公園のように広がる屋外空間の中に雑音のない静かな空間を出現させ、外界の日常に対する結界を作っています。それぞれの構造物の大きさや高さは、この空間内外の様々な場所からの視線を制御するように緻密に計算されており、開放性と閉鎖性が絶妙にバランスされています。コンクリート面の微妙な表情の違いやランドスケープのデザインにも細かな配慮があり、周囲へと連続する歩道や入口周りの事務棟のデザインも含めて、霊園に相応しく時を経ても変わることのない美しく静謐な雰囲気を作り上げました。

撮影：中村絵